

ゼオマイン®による治療を受ける患者さんへ

ゼオマイン®について説明します。

＜あなたが受ける治療＞ 慢性流涎

この薬による治療を受ける際には、以下の点について説明を受け、十分納得したうえで治療同意書（別紙）にご署名ください。

また、この治療について、心配なことや、わからないことがありましたら、いつでも遠慮なく申し出てください。

1. あなたの病気について	この薬による治療の対象は、「慢性流涎」です。 「慢性流涎」とは、口の中にたまった唾液が飲み込む量を超えて口からあふれ出る症状が続く状態のことです。これにより、衣服や寝具が汚れたり、外出の意欲が減るなど日常生活に支障が生じてしまうことがあるので、慢性流涎に対する治療を行います。
2. 成分について	この薬は、ボツリヌス菌がつくり出すA型ボツリヌス毒素（一般的名称：インコボツリヌストキシンA）を有効成分としています。ボツリヌス菌そのものを注射するわけではないため、ボツリヌス菌に感染する危険性はありません。
3. 効果について	● この薬の効果やその持続性には個人差がありますので、定期的に受診してください。 ● この薬は、慢性流涎の症状を和らげる治療として、唾液腺（耳下腺、顎下腺）に直接注射します。 ● その効果は通常16週で消失します。効果が無くなってきたときにはあらためて注射します。あらためて注射するときの間隔は16週以上ですが、症状に応じて14週まで短縮できます。 ● この薬は慢性流涎の原因疾患の治療薬ではありません。慢性流涎の原因となる疾患の治療などを併せて行う必要があります。
4. 投与前の注意点	以下の方は治療開始前に医師・薬剤師にご相談ください ● この薬や、同じ成分の薬を以前に使用し、湿疹が出るなどのアレルギーを経験したことがある方 ● 以前、または現在、他の医療施設でボツリヌス毒素製剤の投与を受けている方 ● 全身性の筋肉の脱力などの病気（重症筋無力症、ランバート・イートン筋無力症候群、筋萎縮性側索硬化症など）がある方 ● 市販薬を含めて、下記の薬剤を使用中の方 【注意が必要な薬剤】 ※ゼオマイン®の効果が強くあらわれることがあります。 ● 筋弛緩薬 ● 筋弛緩作用を有する薬（抗生物質など） ● 他のボツリヌス毒素製剤 ● 唾液分泌抑制作用をもつ薬剤 など ● 妊婦または妊娠している可能性がある女性、授乳中の女性

5. 投与後の注意点

- この薬を投与したことにより、投与部位以外の部位に影響が出て、会話がしにくい、嚥下障害（食べ物や水が上手く飲み込めずむせる）、誤嚥性肺炎（発熱、咳、痰、息切れ、息苦しい）があらわれることがあります。投与開始から16週までにこれらの症状をはじめとして体調に変化が生じた場合、直ちに医師の診察を受けてください。
- 他の医療施設でボツリヌス毒素製剤の投与を受けた場合は、治療の目的や投与日を必ず医師・薬剤師に申し出てください。
- 妊娠する可能性のある女性は、投与中及び最後の投与から16週後まで避妊を考慮してください。
- この薬を投与した後、脱力感、筋力が低下する、まぶたが開きにくくなるといった症状があらわれることがあるので、自動車の運転など危険を伴う機械を操作する際はご注意ください。
- 口の中を清潔にするようにしましょう。
- 唾液の量が減ることによって、嚥下障害、誤嚥性肺炎があらわれることがあります。特に、もともと、食べ物や水が飲み込みにくい患者さんでは、飲食物、痰や唾液、胃液などが誤って気管に入ることによって、誤嚥性肺炎になる場合がありますのでご注意ください。

ゼオマイン®の副作用

以下のような症状があらわれた場合は、直ちに医師の診察を受けてください

● 重大な副作用：

- ・過敏症（アナフィラキシーを含むアレルギー反応）
息苦しさ、皮膚の赤み、急な皮膚のはれ、じんましん、吐き気など
- ・嚥下障害（食べ物や水が上手く飲み込めずむせる）、誤嚥性肺炎（発熱、咳、痰、息切れ、息苦しい）
- ・眼障害（まぶたが閉じにくくなる）

以下のような症状があらわれた場合は、医師に連絡してください

● 主な副作用（成人の慢性流涎患者を対象に行った国内臨床試験での副作用と発生頻度）：

- ・口内乾燥 8.7%（8/92例）
- ・食事や飲み物を上手に飲み込みにくく感じる 8.7%（8/92例）
- ・口が渇く 3.3%（3/92例） など

● 薬の作用が強くあらわれた場合に生じる主な症状：

- ・全身の筋力低下 ・まぶたが開きにくくなる ・物が二つに見える
- ・呼吸困難 ・しゃべりにくい ・ことばがでない
- ・食べ物や水が上手く飲み込めずむせる など

上記以外でも気になる症状があらわれたときは、医師・薬剤師に連絡してください